

St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学のあゆみ その3:教育目標を追跡する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, アヤ メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/129

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



聖路加看護大学のあゆみ—その3—

—教育目標を追跡する—

前田アヤ

はじめに

聖路加看護大学のあゆみの説明は常に聖路加国際病院附属高等看護婦学校から始まって、専門学校、短期大学そして、看護大学に及ぶのが常道となっている。大学は本年(1982)で62周年となる。昨年同窓会は、60周年の記念誌を発行した。この62年のあゆみの過程をみても、高等看護婦学校から専門学校になるまでには7年の歳月が流れている。専門学校の教育は昭和2年に始まり、昭和31年3月の卒業生で終了したのである。昭和29年に短期大学として認可されている。昭和33年に専攻科が附設された。世間の専門学校の大方は4年制の新制大学に組織替えしていた。聖路加女子専門学校も学校の性格からいって、当然4年制の大学になるものであっただろう。しかし、大学の認可を受けるための設置基準をみたすための条件がととのわないためなむなく短大として発足した。しかし、世間の一般常識として、専門職に従事する働き手は、大学卒業ということが常識になってくるようになった。そこで、看護の専門家であれば、聖路加は聖路加看護大学の卒業としなければならない。短大の認可を受けてから11年目に4年制の新制大学として認可を受け早や18年が過ぎ昭和55年には大学院が設置され、大学は段々と充実されつつある。

2. 卒業生の動向

過去60年の間に卒業生の数は1465人(内86人死亡) 高等看護婦学校卒業生数1764人、専門学校卒業生が473人、短大卒303人で、大学卒は昭和56年までの卒業生は603人となる。このなかで高等看護婦学校卒業生で働いている人は1人となっている。これは、年令からみても働くことは無理である。専門学校卒業生は473人(内死去41人)中、看護領域その他で活動している人は190人(約45%)となっている。更に短大卒業生は303人(内死喝5人)で、89人(約30%)が働らいている。大学卒業生は57年までの総数は651人(内死去1人)働いている人は、341人(約5%)である。このほか、大学院で勉強中の卒業生もあるし、外国の看護大学で修士課程を履修中の人もある。このように現在卒業生は看護

の各方面で活躍している。

卒業生がこの急激に変動する社会の中で専門職にチャレンジする活力のもととなるものを知りたいと考え、それには教育の基本となる大学の各年代の教育目標をもう一度みることで何かがわかると考えた。

(1)高等看護婦学校趣意書

(1)目的

聖路加国際病院看護婦学校は日本に於ける看護婦の位置を高め且つ出来得る限り米国に於ける最良の看護婦学校と同等の課程を授くるをもって目的とする。

生徒は規定の課程を終了したる後最後の卒業試験を受くべきものとす。而して右試験に満足に合格したるものには日本政府衛生局の認可する卒業証書を授与せられ日本の各所に於て十分教養ある看護婦として其の職業に従事することを得べし。

卒業後は病院に対して何等の義務なく各自に修得したる事を各自の欲する場所にて実習することを得、但し、尚訓練を完成するために6ヶ月間病院内にて専修科を修むることを可とす。此の専修科は看護婦をして特別の看護法に対して一層の自信を抱かしむるべし。

(2)昭和3年(1928)の要覧に

本校は高等看護婦、高等産婆の養成及学校、公衆衛生並社会事業等に依り保健衛生に関する教授又は実務に従事する婦人を養成する。

(此の時代にはまだ保健婦という名称はなかった)

(3)昭和5年(1930)の要覧

本校は教養ある日本女子を收容し、本科3年間に於て看護一般について教育し、研究科1年間に於て本科に比し更に精進なる教育を施し以て看護婦養成所における教諭、学監又は助手及、保健衛生に関する教授並に実務に当る者を養成するを目的としている。

故に日本に於ける看護婦教育法を改善進歩し、その標準向上のため協力するとともに、国民の保健衛生のために病院、学校其他の諸機関において教授又は実務

に敦掌し以て社会に貢献し得る教師及看護婦を養成することは本校の目標とし希望とする所である。

規則の中に次のように書かれている。

全生徒は毎朝病院内礼拝堂に行はるる祈祷式に出席しなければならぬ

(4)昭和8 (1933) 年

近代看護婦教育の本来の目的は年若き女性を教育して一般社会の需要に応ぜしむるにある。従って教育の目標とする所のものは、病院及家庭内にある患者の看護をなす者を養成するに止まらず、看護学校の管理及教授、又は公衆衛生事業に従事し、疾病に対する戦闘に必要な知識と理解力とを社会民衆に普及せしめ、疾病予防の十全な方策の確立に貢献せんとするを養成するにある。かくの如き活動は教養ある近代看護婦を除いて他に成し得る者を求むることは不可能のことである。(中略) 征病てふ実社会の大業と根本的に結合せしめて其の成果を得るには、新教育を多数の女子に授け、医師と協同の陣営を張らしめ、疾病撲滅のために戦はしめなければならない。聖路加女子専門学校の設立は竟に此の疾病撲滅の大戦に参加するを意味するものであり、従ってそこに適切な教育を受け、此の人道の大戦に己れの身命を擲って顧みざる処の女性に訴えざるを得ざる所以が存在する。

卒業生が活動する範囲として次のようにあげられている。

- 1) 病院に於ける看護勤務及其の取締
- 2) 公衆衛生
- 3) 学校衛生
- 4) 乳幼児保護
- 5) 教授
- 6) 社会事業
- 7) 訪問看護事業
- 8) 工場保健
- 9) 栄養法
- 10) 食餌療法
- 11) 職業指導
- 12) 家庭看護
- 13) 助産

昭和16年の聖路加女子専門学校一覧によれば学校の教育課程の編成がえについて、次のように記されている。

昭和10年に至りては本専門学校の卒業生は公衆衛生勤務、病院勤務の何れに於てもすべて、指導者として活動し、本邦看護学教育の向上に資すべき使命を有するとの見解を以て、学科課程を再び改正して、修業年限を4ケ年に延長し、文部省の認可を得た。該改正の主眼とするところは、将来公衆衛生機関成は病院に勤

務する看護婦の指導性となり、又はそれらの教育に当る者として必要な知識技能は勿論身体及精神の健康を充分に養うにあった。

(5)聖路加女子専門学校の一覧 (昭和10 (1935))

本校生徒教育の目的は、教育的にも身体的にも本校教育に適する素質ある若き女性を收容し、4ケ年の課程に於て、一般看護学は勿論其他保健指導、衛生教育に必要な学科を教授するを目的としている。故に本校卒業生にして特に優秀なるものは病院に於ける看護婦の監督者、看護婦養成所教員、公衆衛生婦指導者或は諸学校の衛生教育者たり得る能力を有するものである。如斯総ての保健事業に於ける女子の指導者を養成するを本校教育の目的として居る。

4年課程の授業科目は次のようになっている。

生理学系科目

生理学

栄養学—健康時栄養、患者食餌、家庭栄養食及其調理指導法

解剖学—器官機能を理解するに必要な組織学を含む

衛生学系科目

衛生学—個人衛生、家庭衛生、公衆衛生、性病予防、精神衛生

細菌学及寄生虫学

健康教育 (個人衛生)

衛生行政

公衆衛生看護学

臨床医学一般

内科学、外科学、救急法、皮膚科学、繃帯学、傳染病学、結核学、耳鼻咽喉科学、整形外科学、婦人科学、産科学、小児科学、薬理学、眼科学、一般看護学、理論学、実習

基本的看護法及其の原理、内科疾患看護法、外科疾患看護法、小児科救急看護法、産科看護法、傳染病看護法、結核看護法、マッサージ、看護史、看護倫理、病室看護実習

修身

倫理学、社会倫理、国民道徳

体操

一般科学

化学

心理学、論理学

教育学

社会学

社会学概論、社会事業に於ける個人取扱法

英語

選択科目として、4年次に次のうちから1つ選択する。

- 1, 公衆衛生看護学理論及実習
- 2, 看護学教育, 監督法及実習
- 3, 助産学理論及実習

以上学科課程による本科の教育は4ケ年にわたって行なわれるが、入学当初の8ヶ月間は生徒の体力増進に力を注ぎ、主として基礎学科の教授を行ないつつ、生徒の性格及智能を個人的に観察し、果たして本校の教育に適するや否やを判定する。生徒各自も亦本校の教育を好み且其訓練に絶ゆる自信あるかを反省する。

最初の6ヶ月間は教室及実験室内の授業のみであるが、7ヶ月目より1日数時間の病室実習も加わる。8ヶ月の期間を無事に経過し、本校生徒たるべき心身の準備が整う時から本格的の一般看護学の教育が始まる。看護学教育には看護学及それに関連する色々の学科の教室内講義と実習は常に並行して行なわれる。

昭和13年の一覧には、全生徒は毎朝聖路加国際メヂカルセンターの礼拝堂に行なわれる祈禱式に出席することとなっている。

(6)昭和52年(1977)以後

聖路加看護大学の教育目的を次のように記されてある。

聖路加看護大学は、キリスト教精神に基き、看護を志す人々にその人格の形成を計り、看護の学と術を修得させ、保健看護の職域に従事できる人の育成を目的としている。

まとめ

聖路加国際病院附属高等看護婦学校における看護婦の養成は、聖路加国際病院のためではないと記されている。日本の看護婦の地位を高めよう。国民がよい医療を受けられるように教養と学術を具備した看護婦を育成しよう。そして、上流階級の家系の女子が、看護婦になることに興味をもつようになってほしいという願いもあったようで、いろいろな期待が寄せられていたのであった。

それでこそ常に教養高い看護婦の育成につとめ、臨床のみでなく地域看護のできる働らき手の養成につとめたのである。病人のCareは勿論、保健、予防、社会復帰までの一貫した看護の実践ができる人材づくりが

目的であった。そして、指導者となる基礎も養なわれるよう配慮されていたのではなかろうか、キリスト教を基盤にしてということばは、最近の要覧には出てきているが古いものにはそのことばはない。しかし、きまりとして、毎朝チャペルの礼拝に出なければならぬと要覧には記されたものがある。学生は、学校に入学したら礼拝には出るものとしていたのである。全寮制であったので舎監の先生がいらっしゃったが、この先生が婦人傳導師も兼ねておられた。従って、夕方には、この舎監の先生によって礼拝が行なわれていた。

聖路加看護大学の今日の看護婦の教育は、初代校長といわれた主事のMrs.A.C.St.John, Miss Grace L. Reid, Miss Christine M.Nuno, Miss Sarah G. White方の学識と献身的努力とキリスト教による奉仕の精神によって築きあげられたものであるといってもいいすぎではない。Miss Nunoは、公衆衛生看護事業を病院の中で、開設した人で公衆衛生看護事業の元祖であるMiss Reidは、教務主任として活躍され、Miss Reidが帰国の後にMiss Whiteが教務主任の役を引きつぎ、同時に細菌学の授業を担当された。Miss Whiteは、唯一人の学士号保持者であった。Miss Whiteは、戦争のため帰国されていたが昭和23年に橋本元学長に招かれて来日し、聖路加女子専門学校の第4代校長に就任して停年まで学長の責任をはたされ昭和31年6月に帰国された。Mrs. St.JohnとMiss Nunoは、昭和16年に心を残こしながら帰国されて、学校は総て日本人の教職員によって運営されるようになった。

看護に学問は必要であるし、技術も練磨しなければならない。しかし、相手をよりよくしてあげよう、楽にしてあげよう、安心させたいという相手を思う心がなければならぬこと等日本を去った先生方は、私共に身をもって示して下さった。それと同じに、品位をたもつこと、職業に対する尊厳さも十分に教えられた。そして、これらは、今日も尚引きつがれているのである。

附録

次頁の表は、昭和35, 6年頃の教師の勤務状況の一端を示すものである。

業務内容 (4月25日～4月30日)

	月 4月25日	火 4月26日	水 4月27日	木 4月28日	金 4月29日	土 4月30日
7		五階病棟実習指導		五階病棟	五階病棟実習指導	五階病棟実習指導
8	オフィス掃除 五階病棟実習 指導及び四階 カンファレン ス打合せ 請求物催促		オフィス掃除 実習室整頓			
9	クラス準備		病棟	五階	クラス準備	
10	基礎看護		基礎看護	聴講 外科学	四階で学生の 実習計画につ き相談及び術 後看護につ き話し合い	
11	臨床部門 打合せ会 (高橋先生他)	聴講 整形外科学	聴講 内科学	基礎看護	受持患者 記録の チェック	〇実習室物品の点検、ペンキ塗り 〇看護手順変更の説明(二年生) 〇ツベルクリン反応注射手伝い
12	昼食	聴講 外科学 (総論)	聴講 内科学	昼食	昼食	
1	婦長との会合記録 高橋先生	丸川先生とカンファレンス (基礎実習について)	見学者のため のお茶を準備	カンファレンス 準備	職員会記録	昼食
2	職員会議	高橋先生と カンファレンス	聴講 内科・外科看護法	5階 カンファレンス	聴講 看護 整形外科	
3	Tea	5階カンファ レンス 掲示について		見学者お茶 接待及び 案内(五階)	基礎看護の物品整頓 及び丸川先生と基礎 看護について相談	基礎看護 教材作り
4	基礎看護請求物 の点検と整理	会合準備	五階実習中の学生の 実習ノートを読む			
5		病院婦長 との懇談会	実習室物品 整頓			

St. Lukes College of Nursing

(Sei Ruka Kango Daigaku)

—The History of the progress—No.3

Aya Maeda

Dr. Teusler was the founder of the St. Luke's International Hospital and also, he was the founder of the training school of Nurses which has deveeoped as the 4 year baccalaureate program College of Nursing.

It is very interesting and Important to know why he established the school of nursing and what kind of Nurses he expected at that time as a young American doctor.

In order to accomplish his idea, Dr. Tuesler invited Mrs. St.John from U.S.A.for the active principle of the school of Nursing.

I have brought up some articles here which give the readers why Dr. Teusler had to start training school of nurses. And his idea which support the Education of nurses.

The ideas of Dr. Teuster and Mrs. St. John have been succeeded by their followers who have had edified by them. The school has made its great progress year by year.